

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300104		
法人名	株式会社 あいわ		
事業所名	芦刈紀水苑		
所在地	佐賀県小城市芦刈町永田3220番地2		
自己評価作成日	平成31年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年3月7日	外部評価確定日	令和元年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の安全を守る、急変時対応、周知、研修環境整え、転倒等対策、感染予防の実施、認知症予防・改善の対応(カラオケ・ゲーム)、ADLの低下の改善(体操・ストレッチ等)
食事は入居者様の希望も取り入れ美味しい食事を提供し栄養の改善・維持・満足感が得られるように取り組んでいます。

地域の中で穏やかに、静かな環境の中で生活ができ、医療機関との連携もとれており安心して苑での生活を続けられています。

笑顔の輪を大切に、これからも理念である『ゆっくり、健やかに、お互いを尊重しあう』をもとに歩んでいきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

開設15年目を迎えた事業所は、窓を開けたり、一歩外に出れば、そこにはこれまでの暮しが感じられる集落がある。利用者は散歩したり、近くのお不動さんにお詣りに行くときに、近所の方と挨拶を交わしたり、声をかけてもらったり、コンビニやお店に買い物に出かけるなど、地域の中で暮している実感がある。

利用者は、運営理念の「地域との交わりの中で、ゆっくりと健やかにお互いを尊重しあう」の実現を目指し、「尊厳を尊重する」日常の支援のもとに毎日を過ごしている。一日の時間がゆっくりと利用者のペースで流れ、普段の生活の基本がきちんとできる家庭的な雰囲気のある暮らしを送っている。

楽しい食事は、ホームの台所で調理された手づくりの副食である。利用者と栽培した野菜や差し入れの果物などが食卓にのぼることもある。入浴には、リフト浴が設置され、利用者と職員の負担軽減にもなっている。長年飼われていた飼犬は、セラピー犬的な役割を果たし、利用者の心を癒していた。室内は清掃が行き届き、嫌な臭いも感じられない。

各種の感染症予防、職員の健康管理、ラインを通しての施設長や休みの職員との情報の共有、作業療法士や看護師の配置、介護ロボットの導入とロボヘルパー資格を有する職員の養成、電気自動車導入に備えての電気工事など、これからの運営をも見据えた工夫も多い。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交わりの中でゆっくり健やかにお互いを尊重しあう」を理念として実践している。	玄関とリビングに大きく明示された運営理念は、設立以来の理念にも、地域との関わりを加味したものである。毎月の定例会議の際に理念を再確認している。理念の目指すところを意識しながらの、日常の支援である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体の回覧板を閲覧し、地域の出来事を把握しているが、行事等には参加できていない。	地域自治会の一員として区費も納入している。地域の理解を得て、清掃や諸作業は免除してもらっているが、できる範囲で公園の草取りをしている。また、散歩の際に近所の方と挨拶を交わしたり、言葉をかけてもらったの交流がある。時には散歩の途中に、道路の空き缶やごみ拾いをしている。近所の班長からは、地域の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物と一緒にすること。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3回開催で3月にも予定している。会議の際には現在の状況を報告し、意見をもらおうようにしている。	運営理念と運営計画、入居者状況、行事計画とその実施状況、運営推進会議の議事予定、地域との交流、身体拘束等の適正化への取り組み、利用者の日常的な外出や一時帰宅等について等、報告と率直な意見交換が行われている。また自己評価や外部評価で明らかになった課題や今後の目標達成への取り組みを報告し、意見を求めている。	年3回の開催である。運営推進会議は、理念である「地域との交わりの中で」を実現する貴重な機会でもある。意義や役割等を再確認し、今後は、基準どおり2カ月に1回以上の開催を検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中部広域連合、地域包括支援センターとの連絡、空き状況の問い合わせ、紹介、相談等が あっている。	施設長は、地域包括支援センターや福祉関係担当課を訪問し、事業所の現状を共有したり、書類の申請交付の代行、生活保護関係の担当者と連携も図っている。また、行政主催の高齢者安心ネットワークとも連携を取るなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・基本的に拘束はしない。 ・転倒リスク、環境の整備、見守り実施 ・研修にも参加している。	勉強会や外部での研修会で、改めて身体拘束廃止の指針を再確認している。また、具体的な禁止行為のチェック表で毎日チェックし、予測される事故の未然防止のためには、まず気づくことが重要であると認識している。言葉かけにも十分に配慮している。玄関は、日中は施錠しておらず、夜間のみ施錠している。家族には日中施錠していないことを了承してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	FC勉強会にて虐待について学ぶ機会を得た。利用者等については、表情などの観察をし、虐待に当たることがないか注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今期は制度について学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分時間を取り、説明を行うようにしている。疑問点については、いつでも尋ねてもらえるように言葉をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の用意はあるが、なかなか入らないのが実情である。面会時等に状況説明をしながら意見などを求めるようにしている。	面会時や介護計画の見直し時には、必ず声をかけて要望や意見を聴いている。要望等が出された時は、利用者や家族の要望等に沿うよう柔軟に対応している。家族宛ての毎月の苑だよりでも、担当者から各家族に利用者の様子をお知らせしている。家族会も組織されており、食事をしながらの会合が開かれている。苦情等の申し立てについてもきちんと説明が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を行い、意見交換を実施している。	施設長や管理者は、毎月の職員会議や日々の業務の中で、職員の意見や要望を聴き、運営に反映させている。手づくり食事への切り替え、職員の健康管理、看護師の配置と作業療法士の配置予定、外出の機会を増やすための施設用の車の手配、電気自動車使用に備えての電源工事など事例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休や有休など規定を定め、働きやすい環境づくりを取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設け、ケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	FC勉強会や交流研修、管理者研修などの場があり、交流できている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	地域包括支援センター、中部広域連合からの紹介で入居されている。入居希望の時は面会に出向き、困りごとを把握し、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時に現状をお聞きしたうえで、家族の思いなどを把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報や家族、本人の状況を基に必要なサービスの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩を敬い、寄り添うことに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の苑だよりや面会時、状態報告をしながら利用者を支えられる関係づくりに努めている。職員の言葉に耳を貸されにくい時には、ご家族から話してもらい素直に聞き入れられたこともある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域から離れた場所に入居された場合には馴染みの場所との関係が途切れる場合もあるため、希望される場合には、人との関係を絶たなくていいように、知人との面会などに応じている。	利用者一人ひとりがこれまでの人生で培ってきた人間関係や社会関係を把握し、できるだけ今までの生活の延長になるようにと支援している。知人や親せきの訪問を歓迎したり、散歩に出かけて知り合いになった近所の方と挨拶を交わしたりしている。彼岸の墓参りや正月の一時帰宅や外泊をする方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎食、利用者様と一緒に食事をしたり、毎日のレクリエーションにて、関わりを持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、相談を受けることはなかったが、「何かありましたら、連絡してください。」と本人様の携帯電話の電話番号を教えていただいたりと、良い関係づくりができていた結果だと思われる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事の希望も取り入れ、食事も改善出来ている。	日々の関わりの中で、声をかけ、話を交わしながら把握に努めている。ひとり言、表情の変化、少しの動きなどからも、真意を推測したり、それとなく確認をしている。利用者の担当制をとっており、より密接な信頼関係が保てるように工夫している。そこから得られた情報は、全職員で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から生活歴を聞いたり、入居前の状況を聞き取り、経過の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通して状態の把握し、異常時の早期発見につなげるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め、すべてのスタッフからの意見を基に介護計画書は作られている。家族の思いも反映している。	利用者の視点にたつて、その人らしく暮らし続けるために必要な支援を具体的に盛り込んだ介護計画である。本人や家族と日頃の関わりの中で、暮らしの意向を聴き、反映された計画だけでなく、職員全体で作成されている。利用者や家族の意向欄には、本人や家族の自筆で書かれている。計画の見直しもきちんと行われている。介護計画書の様式も、使いやすいように変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画の見直しにつながり、日々の様子が見えるような記録の仕方やアセスメントとなるように心がけている。 ・SOAP記録の実施方向へ		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化についての対応では、できる事が限られているが、グループホームだからこそ家族のように、ひとつ屋根の下で暮らせる気持ちで取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、刺激となり暮らしていけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に介護の度合いにより、往診をしていただけるかどうか決まっている。受診の場合、スタッフの付き添いにて受診対応を行っているが、希望する場合は家族対応だが、状態をきちんと伝えられるようにしている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医による受診を支援している。現在は利用者全員が協力医療機関での受診診断を受けている。協力医療機関とは24時間何時でも受け入れ可能な関係で、定期的に往診もあっている。歯科医での受診に際しても、きちんと支援している。専従として配置されている看護師は、利用者だけでなく職員の健康管理や衛生環境にも十分に留意している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「いつもと違う」に気づき、変化の状況を伝えられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の面会をしたり、医療関係者との連絡は行っている。退院に向けてのカンファレンスには積極的に参加し、情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針を定め、事業所として出来る事を家族、医療関係者と共に話し合いながら、最期まで施設にて過ごされるように、出来る限りの事を行っている。	入居時に「重度化や看取り介護に関する指針」を基にして、話し合いを持ち、最期まで事業所での暮らしが継続できることを伝えている。現在は看取り介護の希望は無いが、重度化したり、終末期を迎えられた場合は、再度「看取り介護の指針」を説明し、家族の意向を確認し、家族の意思を尊重した支援を行える体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤者以外はAEDの講習に参加し体験を行う。年1回実施する予定。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。地域の消防団の方の参加も得られている。(地域の方へのお知らせをしていたが、住民の方の間違いで早めに来られて、丁寧に説明、その時間には来れないとのことだった)	消防計画に基づき、消防署の指導も受けながらの火災想定での避難訓練である。地域消防団の参加もある。通報、避難方法、状況に応じた避難経路、避難場所の確認もできている。居室の入口には避難完了が素早く確実に確認できるようにと、目印の工夫がしてある。消防団は、避難訓練以外にも訪れ、連携を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。	利用者の誰もが持っている尊厳や誇りを尊重し、これまでの人生を肯定し先輩として敬っている。親しさの中にも節度ある優しい言葉かけや対応を行っている。気になる言葉かけや対応があった場合は、施設長や管理者がきちんと指導している。運営規程にも「秘密保持等」の条項があり、個人情報もきちんと守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で、思いを表現できるように声かけを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の一日の流れはあるが、1人1人のペースで生活されるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが整えられるように、鏡やブラシを用意している。散髪を2か月に一度実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、お正月のおせち料理の盛り付けを手伝ってもらったり、一緒におやつ作りをしたり、水栽培の野菜を収穫したり、出来る事をしてもらっている。また、食べたい物の希望を聞いてメニューに活用している。	これまで、調理された宅配物の利用であったが、おいしくないと言う利用者の方で、現在は、苑の台所で調理した家庭的な手づくりの食事に切り替えている。利用者にもおいしいと好評で、全員が完食である。調理する音や匂いも食事への期待を高めている。食事前の献立の説明も丁寧である。職員も皆と一緒に、同じ食事を利用者の間に入っている。家庭菜園の野菜も食卓に上っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎月の献立表の記入。 ・食事量や水分量は毎日把握している。水分に関しては、とろみをつけたり味を変えたり、種類を変え対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じた口腔ケアを行っている。また、定期的に義歯洗浄をしたり口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレにて排泄できるように支援している。排泄パターンやしぐさにて、排泄のタイミングを見落とさないように心がけている。	排泄が自立している方も含めて、一人ひとりの排泄パターンや習慣がそれぞれ把握され、各人に合わせた支援である。トイレ誘導時には、自尊心に配慮した声かけである。夜間はポータブルトイレ使用の方もいるが、日中はトイレで使用する支援である。トイレの手すりには、使用の際の打撲防止にクッションが取り付けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分を十分にとってもらい、スムーズに排便できるように支援している。 ・パタカラ嚥下体操をしたり、フジラクトを摂取してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は週3回の入浴清拭、陰洗をしている。リフト浴の設備もあり、より安全に入浴できるようにしている。職員の負担も軽減できている。	基本的には週3回の入浴であるが、希望する方には、入浴順や時間帯、入浴時間と合わせて柔軟に対応している。入浴介助は、1対1の支援であり、利用者の心情を知る良い場となっている。リフト浴や暖房施設の設置、利用者の肌の状態を考えてのベビーシャンプーの使用など、安全な入浴に配慮した支援でもある。入浴をおっくうがる方には無理強いでなく、気分を変えての入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩用にリビングのベットやソファを使えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による管理を受けているが、担当スタッフを決め、内容を把握するようにしている。不明点はすぐに薬剤師に尋ねられる。2重チェックで服薬もれ、誤薬を防ぐ努力をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴と現在が直結することは少ないが、施設での生活の中で楽しみを見つけられるよう支援している。洗濯物のたたみの手伝い等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の人の協力で外出することはできていない。季節の良い時は日常的に散歩などを行っている。行事としての外出は、バルーン大会へドライブ外出、佐賀域内を外より見学したり、市政だよりは班長宅まで受け取りに伺っている。	季節や天候を見計らって近所を散歩したり、近くに祀ってあるお不動さんにお参りをしている。コンビニやお店に買い物に出かけることもある。稲が実った田んぼや栽培されている野菜を見学して四季を感じたり、話が弾むこともある。バルーンや花見、紅葉見学のドライブ外出もある。今後は、同系列会社の車を利用しての外出が増えることが期待できる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おまもり程度に現金を所持されている方はおられたが、施設として管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話をかける方には応じている。入居当初は携帯電話を持っていたが、使わずに充電しているだけで終わるようになった。手紙のやり取りも家族に投げかけたが、続かないことが多かった。受け取った年賀状を壁に飾ってあげると喜ばれていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかりやすい表示をしている。見学に来られる際にわかりにくかったので、リビングの窓に飾りをするようにした。季節の飾りをさりげなく取り入れたり、職員の手作りの飾りなどを飾ったりしている。	室内は清潔感があり、特有の臭いも全く感じない。床は感染症防止も兼ねて塩素系の薬品で拭いている。窓はすべてが二重サッシになっており、外の車の音や近くの船の出入りの音も聞こえてこない。居間にはテーブルやソファが効果的に配置されている。テレビは利用者が希望する番組を録画してから視聴している。室温、湿度の管理も適切である。運動器具も準備されており、何時でも使用できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を考えたり、座る位置により一人になったり、話ができる場所だったり、広いリビングを有効に使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んで良いことは入居時に伝えている。趣味のものを持ち込んだりしながら、思い思いの空間となっている。	馴染みの物や好みの品の持ち込みを勧めたり、物品の配置を利用者や家族と一緒に考える等の支援で、その方らしい各居室になっている。夫婦で入居している利用者には、利用者や家族の希望で、2室を落ち着いて暮せるように配慮した居室の構成になっている。職員が描いた似顔絵、整理箱、時計、家族の写真、趣味の道具、その他色々な物が見受けられた。窓の施錠は何時でも開閉できる状態になっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないように注意したり、わかりやすい表示や言葉かけで安全に生活できるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない